令和元年度　学校関係者評価結果　　令和2年8月12日

学校関係者評価委員		（敬称略）
委員長	西原達次	公立大学法人九州歯科大学　理事長・学長
副委員長	堀　　修	福岡県立若松商業高等学校　校長
委員	大森弘太郎	九州医療スポーツ専門学校同窓会　会長

評定の意味

4：適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後さらに向上させるための意欲がある。
3：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
2：対応が十分ではなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
1：全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

基準１．教育理念・目的・育成人材像等

平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	西原達次	4	本年度の重点目標の達成に向けて充実した取り組みがなされていると判断した。	4.0
	堀　　修	4	渋沢栄一が説いた「士魂商才」を発展、昇華させた「士魂医才」の教育理念は、武士道に立脚した道徳を根底としている。それは、嘘や不道徳、不誠実がなく、世の中のために尽くすことを基盤とした人格形成・人としてのあるべき姿を目指すことを本懐とし、加えてプロフェッショナルな医療人としての技を磨くことは大変優れたものとして評価できる。	
	大森弘太郎	4	プロフェッショナル医療人輩出の為に、学校全体含め教育を行っていると思う。また挨拶・感謝・感動・責任など教育に於いてとても大切なことを推進している。北九州市など地域へも浸透している。	

基準２．学校運営

平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.7	西原達次	3	情報システムの運営に際し、セキュリティー管理は、外部からの不正アクセスの防止はもとより、内部情報の適正管理が求められるなか、より充実した体制の維持・更新が必要である。	3.4
	堀　　修	4	学校の教育理念だけでなく、法人の理念も調和した上で、主体的な学校運営ができている。特に、毎年、事業計画の見直し、3年先まで見据えた予算書作成や情報のシステム化の定着を推進していることは評価できる。	
	大森弘太郎	4	教職員の日報制度など、社内のコミュニケーションの向上やヒヤリ・ハットなど日報を通じての運営の強化が行われている。時代にそってITの更新など対応していると判断した。学内の規律や就業規則、また会議や打合せでの議事録などもコンプライアンスを重視しているようだ。	

基準３．教育活動				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.7	西原達次	3	ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを文書化しているレベルからシラバスを整備していないレベルまで、学科間に大きなバラツキが見られる。学生数の規模からみて、全体統括する組織もしくは会議体の設置が求められる。	3.2
	堀　　修	4	昨年度の自己評価の課題に対して各学科で積極的に取り組んだ結果、前年より0．5ポイント評価が上昇している。今後、外部の関連業界との連携による教員の研修・研究のさらなる充実を図ることでのスキルアップ体制の確立が望まれる。また、前年に引き続き、職業教育に関する方針を文書化して職員の共有を図るなど、キャリア教育のさらなる充実を期待する。	
	大森弘太郎	4	学科数が多くなるにつれて情報や資料やルールなど様々な体制があるように思える。色々と制限はあるだろうが、学内での統一などチャレンジしても良いのでは無いかと感じた。	

基準４．学修成果				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.0	西原達次	2	アウトカム、出口戦略において資格・免許取得率はきわめて重要な指標であり、さらなる向上が求められる。教員１人１人に、学生の卒業時に備えるべきコンピテンシーが共有されていることが必須と思われる。	3.1
	堀　　修	4	昨年度の自己評価の課題に対して、就職率の向上を目指すなど、前年より0．4ポイント評価が上昇している。社会が求める多様な学科を有している中で、資格取得率・就職率は極めて重要な指標であり、各資格の全国における合格率と比して本校の合格率を明示するなど、現在の成果を把握した上で、さらなる取組を充実させたい。	
	大森弘太郎	3	国家資格を取得する学科、また、それに準ずる資格など学科により異なるが、基本的には資格取得を目指して取り組みをされている。学科により取得率は異なると思うが、卒業していく学生が医療人プロフェッショナルとして後押しをしているように感じた。学科により課題や取組・改善案もあるが、現在の取組状況のレベルの再確認なども、色々な視点（他者）で見ることも必要なのかと感じた。	

基準５．学生支援				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.3	西原達次	3	評定２の学科が散見されるが、多くの場合、近隣職種との連携もしくは他職種連携のなかで就職先開拓など多面的な活動など工夫が求められる。	3.1
	堀　　修	4	キャリアサポートセンターの設置や就職支援に力を注ぐことによって、前年より0．4ポイント評価が上昇している。組織的な進路支援体制が整ってきていることは大いに評価できるが、学科によっては担任と担当者との連携が十分でないところがある。生徒に対して経済的支援体制を設けていること、心のケアや急病・事故に対する対応体制がとれていることは評価できる。学校保健計画を策定することで、さらなる充実を図ってほしい。	
	大森弘太郎	3	個々の学生の学習レベルに応じて個別対応をしている時間をとっている学科もある。しかし時間を取れていない学科もあるようで、そこのサポートもしていければもっと良くなっていくと思う。キャリアサポートセンターとの連携・就職説明会の実施や参加など学校と学生・会社との連携も取り組んでいる。取り組めていない学科とはヒアリングなども実施して改善の方向で、進めていければもっと良くなると感じた。	

基準６．教育環境				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.3	西原達次	3	インターンシップなどで、専門学校職員が学外活動を通じて社会が求める医療スタッフ像を把握して、組織横断的な活動が求められる。	3.1
	堀　　修	3	消防計画書を作成し、年2回の消防訓練を実施するなど法令に適合し、安心・安全な学校における整備が整っている。学科によっては、学外実習が十分ではなく、関連する業界との連携をより強化する必要がある。	
	大森弘太郎	4	新たに実習などが始まった学科では様々な課題もあるようだが、改善案なども細かくできており、教育環境も改善していくと感じたインターンシップの必要性を伝えることなど先生の思いもあらわれており良い環境だと思う。インターンが既存からある学科では更なる向上に期待です。	

基準７．学生の募集と受入れ				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.0	西原達次	3	入学定員の確保がより厳しくなることが想定されている今、プロジェクトを立ち上げて、入学者確保に向けて組織的活動が求められる。特に、本件にはスピード感が重要となる。	3.5
	堀　　修	3	学科単位の合格および辞退についてデータ管理を行うことで、経年比較が可能となる。データ分析を通して、より効果的な学生募集戦略を実践してほしい。学納金は適切に算定し、文部科学省通知の趣旨に基づいた取り扱いを行っていることは評価できる。	
	大森弘太郎	3	学生の募集状況は、これまで時代に応じて新たな学科の追加などを行っており、いつの時代でも対応できる学校作りをおこなっていると思う。その反面募集を受け入れる広報部の活動も幅が広がってきているとも思う。広報部が高校や学生に伝える技術などの向上にも取り組んでおりそれが学生の募集に繋がれば下記の財務もより良くなっていくと思う。学生がいてこその学校でもあるので力を入れていきたい所だ。	

基準８．財　務				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.7	西原達次	3	昨今の組織の透明性という視点からも、適正な情報公開が求められる。	3.0
	堀　　修	4	学校および法人運営にかかる中長期的な財政基盤は安定しており、それに基づく適切な財務分析もできている。健全な財務処理を継続して行って欲しい。	
	大森弘太郎	4	問題無いと思う。更なる財務の強化・学内留保など昨今の未曾有の事態でも安心できる地盤が必要だ。	

基準９．法令等の遵守				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.3	西原達次	3	関係法令の遵守などについては特に指摘する事項は見当たらない。一方で、学校評価は適正に行われているなかで、各論においてよりスピード感のある改善が求められる。	3.6
	堀　　修	4	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営が行われている。特に「ハラスメントマニュアル」を策定して、これに基づいた運用を適切に行っていることは大いに評価できる。運用の実態に応じて、規則・規定をさらに整備することも期待する。経年劣化したサーバーを交換することで、個人情報のセキュリティ強化を図ることは急務である。	
	大森弘太郎	3	学内の個人情報〔サーバ〕などは万全の体制での管理は必要だと感じる。	

基準10．社会貢献・地域貢献				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.7	西原達次	3	理事長が中心となって推進している地域貢献活動をより積極的に広報し、貴学のプレゼンスを発信しても良いのではないだろうか。	3.3
	堀　　修	4	高等学校が行うキャリア教育の実施（学校デパート等の催し物等）に教員を派遣するなど、積極的な協力･支援については大いに評価できる。また、北九州マラソンを始めとするイベント等においてもボランティア活動の一環として参加していることは素晴らしい社会貢献・地域貢献である。これらの取組をさらに継続して欲しい。	
	大森弘太郎	4	市内のイベントに学生のボランティア活動など実践もありまた、校舎を利用しての献血など評価するとこもあると感じる。毎週月曜日の周辺清掃活動を通じても発信できていると思う。	

総　括		
	委員氏名	意見
	西原達次	社会的に少子化が進み、18歳人口の減少が指摘されているなか、医療ならびにスポーツを通じて新たな医療系人財を育成していることを確認することができた。その一方で、そのような人財育成プロセスをより横断的教育体制をもって豊かな形に変換し、これからの社会が求める医療系人財育成を学科の域にとらわれない形をもって推進することが求められる。専門学校としてこれだけ多くの学科教育を強みにして、九州医療スポーツ専門学校の理念に基づき、知識・技術・人間性のある幅広い医療系人財の育成を目指していただきたい。
	堀　　修	学校全体として、改善点なども明確にしており、昨年度の自己評価と比較してさらに向上した。特に、学校の要である「教育活動」において「鍼灸学科」「スポーツ鍼灸学科」「歯科衛生学科」「ホスピタリティ・コンシュルジュ学科」の評価向上が著しい。しかし、複数の学科において、基準3に満たない項目も少なからず見受けられる。他の部署・学科とも連携を進めているところもあるが、データ収集・分析から見えてくる学校全体目標や各学科の目標を改めて再考し、現状に対して常に新しい取組を行うことで、さらに魅力ある「九州医療スポーツ専門学校」として今後の学生獲得に資していただきたい。
	大森弘太郎	担当教員により、課題や改善案などにもバラツキや基準の違いも感じたのでいちど基準のすり合わせをする事で、学校としての評価も増してくると感じた。学科数も多く校舎も別れている事もあるが、各部署の連携が更なる飛躍になるとも思う。これから、益々少子高齢化の時代になるが九州医療スポーツ専門学校が地元北九州で更なるプロフェッショナル医療人輩出の学校になる事が楽しみです。